

特定非営利活動法人
ウェブアクセシビリティ推進協会セミナー

- 高齢者の社会参加と
ウェブアクセシビリティ

2012年5月29日

はじめに

理事長

山田 肇

ウェブの目的の変化

- かつては情報発信
 - 利用者に「サイトを見せる」だけの一方通行
- 利用者の囲い込み・フォローなども、今やウェブ構築の目的。すなわち双方向コミュニケーション
 - 「利用者個々の特性に応じてくれ、利用して楽しい」というレベル
- アクセシビリティとユーザビリティが必須の時代

ウェブアクセシビリティを満たさないと

- ウェブが使いにくいために、効率性が悪いと評価される
- もっとひどいと
 - 情報にたどり着けないので「二度と使うもんか」と利用者から見放される
 - 情報にたどり着けないので、その組織の価値そのものが問われてしまう
 - 訴訟を受ける

日本の将来推計人口

国立社会保障・人口問題研究所(12年1月30日)

- 2060年の推計人口は8,674万人で、2010年の1億2,806万人から4,000万人以上も減少
- 65歳以上人口は、2010年の2,948万人が、2060年には3,464万人に。高齢化率は39.9%
- 生産年齢人口(15-64歳人口)は、8,173万人から4,418万人に4割以上も減少
- 高齢者一人を生産年齢の一人が支える社会が到来

高齢者とウェブアクセシビリティ

- 高齢者は大きな市場。一方で、生産年齢人口の減少を補う社会的役割に期待
- 高齢者がアクセスできない、利用できないウェブに存在価値はない
- その上、社会参加には高齢者の衰えを防ぐ効果
→ さあ、矢富先生をお招きしましょう